

## レジデントカリキュラム ー病理コースー

### 概要

当センター病理部門は循環器病疾患の病理を中心に診断および研究を行っている。とくに病理解剖(剖検)診断が中心業務であるが、外科および生検診断も行っている。

剖検は平成 20 年には 3,290 例に達成し、平均剖検率は約 35%と全国でも上位である。生検例も年間およそ 2,000 例を経験している。剖検例は殆ど全ての症例がカンファレンスにかかり、臨床各科との密な情報交換を行い、最先端の医療現場を経験できる。さらに臨床研究にも力を入れている。心移植の病理についても多くの症例を経験できる。とくに心筋生検はおそらく日本一多くの症例を経験していると自負している。内科、外科、小児科を問わず将来循環器医を目指す医師の生涯教育の一貫として循環器病理を捉え、レジデントとしての形態学的病態把握の経験を積むことは極めて有意義である。認定病理医を目指す若い病理医にとっても同様である。

### 一般目標

心血管疾患に関する病理検査技術、病理組織診断法、剖検手技を修得する。単に診断力だけでなく、統合的判断ができるよう考える力を身につける。

### 年次別カリキュラム (例)

1 年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・ スタッフの指導による剖検補助および剖検手技の習得</li><li>・ スタッフの指導による剖検所見の見方および記載方法の修得</li><li>・ 剖検・生検例の病理組織診断法ならびに顕微鏡写真撮影法の修得</li><li>・ 剖検の実践と冠状動脈等の病理学的解析</li><li>・ 剖検例のプレゼンテーションと症例報告</li></ul>
2 年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病理組織学的症例解析法の修得</li><li>・ 研究テーマの選定と遂行</li><li>・ 動物実験等も含めた分子病理的基礎研究</li><li>・ 免疫染色法、電子顕微鏡による診断法の習得</li><li>・ 学会活動と症例報告等の論文作成</li></ul>
3 年次	<ul style="list-style-type: none"><li>・ スタッフ監督下で 1 年次レジデントの指導</li><li>・ 人体病理あるいは実験病理の総括と論文作成</li><li>・ 学会活動および研究報告</li><li>・ 厚生労働省認定剖検医資格の申請および取得</li></ul>

### 3年間で経験するであろう主な剖検および外科病理症例

#### 1) 疾患リスト

1. 心移植	3 例/3 年	5. 大動脈疾患	30 例/3 年
2. 虚血性心疾患	30 例/3 年	6. 末梢血管疾患	10 例/3 年
3. 弁膜疾患	30 例/3 年	7. 肺性心疾患	10 例/3 年
4. 心筋疾患	20 例/3 年	8. 先天性心疾患	20 例/3 年

#### 2) 研修できる主な検査

1. 病理解剖	4. In situ Hybridization
2. 一般染色	5. 細胞診
3. 免疫染色、蛍光染色、酵素染色等	6. 電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡

### カンファレンス等の週間スケジュール

内 容	曜 日	時 間
・ 剖検症例検討会	毎週木曜日	午後
・ 肉眼的剖検症例検討会およびBrain Cutting	毎週月曜日	午前
・ 内科集談会と剖検報告会	毎週木曜日	夕方
・ 心筋生検サインアウト	毎週水曜日	11 時
・ センターCPC(年 4 回)	第2 or 3 月曜日	午後
・ 外科/病理合同剖検症例検討会	第4 月曜日	夕方
・ 心臓移植適応症例検討会	毎週月曜日	夕方
・ 移植術後症例検討会	毎週火曜日	夕方
・ 他科との CPC および他病院からのコンサルテーション症例の検討会		随時
・ リサーチカンファレンスへの参加		

### 専門医資格など

病理解剖医（厚生労働省認定）病理専門医、細胞診専門医、臨床検査専門医、医学博士（大学との連携）

### その他

- ・ 当センターの病理部門レジデントは、循環器臨床医や循環器専門医の病理学的知識、病理学的研究の手法などの習得を目指し、一般病理医に対しては循環器病理の専門知識の習得を目標としている。
- ・ 他科（臨床科）レジデントの3ヵ月ローテーションも同じカリキュラムで受け入れている。又、病理以外の他科ローテーションも可能である。

### 修了評価

3 年修了時には指導責任者が評価し、研修委員会において修了を判定する。